

プレミアム商品券事業



山本敬介議員

1 プレミアム商品券事業

問 村の商工業活性化のため、長年続けているプレミアム商品券事業ですが、はじめた経緯とこれまでの総括を伺います。

中村村長 事業が始まったのは17年前の平成10年で、商工会と農協の連名で村に要望書が提出され、プレミアム率20%で、販売されたのがはじまりです。村外への購買力流出を食い止めるための緊急対策でした。

17年間取り組んできた同事業の目的は現在も大きく変わりません。村内消費を喚起し、商工業者振興を図るとともに、村民の生活支援に資する効果を期待しています。同事業は17年間に約2億円の村内消費効果をもたらしたと考えています。

問 今年度は国の方針で、国道からの交付金があり、久しぶりに夏と冬2回、合わせて6か月間事業が行われています。

今年だけでも2937万5千円という消費を村内に留め置いたこととなります。今年度の事業について伺います。

中村村長 今年度の事業はプレミアム率25%で、1戸の購入

上限金額を10万円に引き上げ、利用期間を3カ月間に拡大したことが、好調要因の1つと考えています。

今年度事業に関しては夏事業の評価も高く、商工会の創意工夫によるものです。

問 村として次年度以降この事業をどういう形で続けていくのか、方向性を伺います。

中村村長 国の動向はまだわかりませんが、この事業は村費投入の4倍から5倍の経済効果をもたらしており、確実に地域内での消費が実現する事業です。

参加店の自助努力もいただきながら、次年度も2回実施する方向で考えています。



好評だった2015年度プレミアム商品券

2 道の駅の満足度向上を

問 道の駅は今や観光客のみならず、例えば移住を検討している方にとっても重要な情報提供の場になるなど、村の顔としての役割を果たしています。その重要性について伺います。

中村村長 道の駅は、単なる人が集まる場所ではなく、その町の縮図と考えています。

問 国土交通省が発表している平成26年の道の駅ランキングには、「トイレがきれいに感じた道の駅」「ゆつくり休憩できたと感じた道の駅」など様々な分野がありますが、残念ながら占冠の道の駅はどのランキングの10位以内にも入っていません。

こうしたランキングのほかに施設の状況判断の指標として、利用者の満足度調査があります。トマムリゾートでも長年実施されていますが、これまで道の駅でこのような調査を行ったことはありますか。

中村村長 アンケート調査は必要と考えています。指定管理先の観光協会や商工会とも協議していきま

問 現在の道の駅は、テナント、指定管理者、地域住民が知恵を出し合い、どうすれば満足度を上げられるか考えていく必要があると思います。そんな中で調整を担ってきた道の駅の管理組合が解散したと聞きました。が、伺います。

中村村長 ショッピングモール管理組合は平成26年1月の定期総会をもって解散しています。各店舗の管理は指定管理者が引き継いでいます。

問 1つ1つのクレームに対応するのは指定管理者が調整することでも可能かもしれませんが、やはり全体の満足度を上げていこうというときには、一定の権限が必要になってくると思います。

ここは行政がしっかりと先導して、ユーザの声をしっかりと組み上げて満足度向上、質の向上につながるような仕組みづくりをしていくべきと思いますが、伺います。

中村村長 十分関係者と協議して仕組みづくりに向けて検討したいと考えています。